

第4号様式

指定管理業務評価表

	施設名	富士見市立中央図書館・富士見市立図書館鶴瀬西分館・富士見市立図書館ふじみ野分館	令和7年度	事業報告	
	指定管理者名	TRC・キラリ財団グループ			
	指定期間	令和7年4月1日～令和12年3月31日	所管課	教育委員会 生涯学習課	

自己評価…指定管理者 所管評価…市(施設所管課)

1業務の実施体制	個別評価項目	確 認 基 準	自己評価	所管評価	施設所管課評価意見
	人員体制	事業計画書どりの人員を配置している。	A	A	
		必要な資格や経験を有する人員が配置されている。	A	A	
		責任者(代理する者)が施設に常駐している。	A	A	
	職員の対応等	仕事内容を十分に把握し、利用許可や施設案内等を迅速かつ適正に行っている。	A	A	
		名札を着用し、業務遂行にふさわしい服装となっている。	A	A	
		利用者の要望や苦情等に対して適切に対応している。	A	A	
		言葉遣い、態度などの接遇は適切である。	A	A	
		事業計画に即し、職員研修を計画的に実施している。	A	A	
	法令等遵守	法令、条例等に基づき管理運営を行っている。	A	A	
個人情報保護	個人情報保護に関する規程が整備され、個人情報の漏洩、滅失等の対策を講じている。基本協定書の個人情報取扱特記事項を遵守している。	A	A		
情報公開	情報公開に関する規程が整備され、適切に対応できる。	A	A		
報告書の提出	定期報告書、事業報告書を期限内に提出している。	A	A		
安全、緊急対策	事故・災害等緊急時のマニュアルがあり、訓練が実施され、連絡体制や対応体制ができていて、また、事故等があった場合、適切な対応が行われ、報告が市にされている。	A	A		
	事故防止及び安全確保(避難通路の確保等)のために施設や設備の目視や点検を行い、常に施設や設備の状況を把握している。	A	A		
2業務の内容・水準	維持管理	条例等の規定に基づき開館日、開館時間を遵守している。	A	A	
		外部委託の内容は、事前に市の承認を受けており、適切である。	A	A	
		仕様書等に従い、清掃、警備、衛生管理を適切に行い、利用者が施設を快適に利用できる環境となっている。	A	A	
		仕様書等に従い、施設・設備の保守管理を適切に行い、利用者が安全・快適に施設を利用できている。	A	A	
		備品台帳に基づき、備品を適切に管理し、利用者が快適に利用できているか。	A	A	
	事業運営	協定書等に従い、適切に修繕を行っている。	A	A	
		事業計画書に即し、自主事業を実施している。	A	A	
		事業内容が利用者サービスの向上に寄与している。	A	A	
		地域や他施設との連携に努めている。	A	A	
		利用者のアンケート	利用者の要望等の把握方法は適切である。	A	A
利用状況	要望等の対応策は適切である。	A	A		
	利用者数、稼働率等は、適正な水準にある。	A	A		
	業務日誌を適切に整備、保管している。	A	A		
	管理記録	点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A	
	環境配慮	省エネ、ゴミの抑制、リサイクルの推進に努めている。	A	A	
3収支等	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え、適切に経理事務を行っている。	A	A	
	収支状況	収支予算書と比較して、収支状況は適正である。	A	A	
	経費削減	経費が縮減され、又はその縮減に向けた努力を行っている。	A	A	
総合評価			A	A	
成果・課題等	(自己評価) ■成果 ・電子図書館のIDとパスワードを市内全小学生に付与した。 読み放題バックの追加購入や刷新、ふわびーの絵本やお散歩マップ等、市で作成した資料をログイン無しで閲覧できる環境を整えた結果、電子図書館の登録者数、閲覧数、貸出数、予約数が飛躍的に伸びた。 ・セカンドブック事業が6年間継続出来ている。 ・託児サービスについては、受付時間を30分繰り上げるなどの変更をし、常連の方を含め多くの方にご利用いただき、大変好評である。 ・障がい者サービスについては、ZOOMによる対面朗読や宅配サービスなど、継続的にご利用いただいている。 ・1年を通して他施設との連携をより深めることができた。 (ふじみ野交流センター、ふじみ野児童館、ふじみ野保育園、慶應ふじみ保育園、勝瀬小学校、ふじみ野小学校、勝瀬中学校、富士見高校) 特に、ふじみ野小学校特別支援学級については、1年間関わらせていただくことにより、絵本を通じて児童の聞く耳を育てることに貢献できた。 ・LIBOONの実証実験を行い、保護者への需要を把握しやすくなった。 ・一般利用者についても様々なイベントを行うことにより、図書館への誘致と関連資料の貸出に繋がった。 ・つるせ台小学校支援学級在籍者向けに、読み聞かせ＆ブックトーク及び本の貸出しを毎週実施した。 さらに、全学年の利用を達成できた。また、鶴瀬小学校や開沢小学校との連携も引き続き行っている。 小学生向けには、いろいろなワークショップを用意し、図書館での学べるイベントにも参加いただいている。 ・まちづくり協議会主催の「つるせ台まつり」に工作で参加し、PTAとの連携や地域の方たちとの交流を深めることができた。 また、今年初めて行った鶴瀬公民館との連携事業を通じて、いろいろな方への本の紹介もできた。 水貝貝塚資料館、難波田資料館、県たこ保存会、富士見市民人材バンクなども連携し、市内のいろいろな分野の方とイベントを行えたことは、西分館にとってはとても有意義で利用者増加にも貢献していると考える。 ・西分館の特徴である図書館YAサポーターとの連携では、夏休みの科学講座、つるせ台まつり、ボードゲーム、鶴瀬公民館との事業連携などいろいろなことに挑戦していただけた。 また、中学校卒業後も参加してくれている方がおり、図書館のサポーターとして活躍されている。 ■課題 ・全小学生に電子図書館のIDとパスワードを付与したが、実際の利用については、11校中6校に留まっているのが現状。全校へと拡大する方法が課題となっている。 ・毎年、小学校新1年生に図書館利用カードを作成しているが、実際の図書館利用につながらっていないのが現状である。今後は、実証実験を行ったLIBOON(移動図書館車)を活用することで、利用促進を図りたい。 ・渋谷定輔文庫を始めとした貴重な郷土資料を保存していくため、デジタル化を進めていく必要があると考えている。 ・小学生の利用率アップ、資料提供率アップだけでなく、電子図書館利用と資料提供と両方の利用促進が必要である。 ・図書館離れといわれるYA世代が活躍できる機会を、今後どのように展開していくのか考える必要がある。 ・予約資料の「ピアザ☆ふじみ」受け取りが増えているが、予約資料のみの方々をどのように図書館に呼び込むか検討する必要がある。				
	(所管評価) 中央図書館、ふじみ野分館及び鶴瀬西分館ともに業務の実施体制、事業の内容と運営、施設の維持管理等について、協定書、仕様書等を遵守し、年間を通して適正に管理運営が行われている。 ・「第4次富士見市子ども読書活動推進計画」に基づき、明確なビジョンを持って事業が展開されている。 ・中央図書館を核とした各分館のネットワークが効果的に機能しており、市民の多様なニーズに応える体制が確立されている。 特に乳幼児から青年期にいたるまで、発達段階に合わせた切れ目のないサービスが提供されており、「読書活動」を途絶えさせない仕組み作りが行われている。 ・施設管理についても、清潔かつ安全な環境が維持されている。 ・質の高い蔵書構成に加え、電子書籍サービスの拡充やレファレンスサービスの迅速、的確な対応が、市民の利便性向上に大きく寄与している。 ・特におはなし会、映画会・各種イベントの開催は、参加者の継続的な利用と幅広い年齢層に向けた図書館の周知、また市内の小学校や保育園・幼稚園・児童館等と連携にも繋がっており、地域コミュニティの醸成に重要な役割を果たしている。 今後も単なる読書施設に留まらず、地域の文化拠点としての機能を遺憾なく発揮し、生涯学習を支える中核施設としてのさらなる発展を期待する。				

※評価区分

①	個別評価	AA(優 良)＝協定書、仕様書等を遵守し、その水準よりも優れた管理運営内容である。 A(良 好)＝協定書、仕様書等を遵守し、その水準に沿った管理運営内容である。 B(問題含)＝協定書、仕様書等を遵守しているが、管理運営内容の一部に問題がある。 C(要改善)＝協定書、仕様書等を遵守しておらず、改善が必要な管理運営内容である。
		↓
②	総合評価	AA(優 良)＝個別評価がすべてA以上であり、かつAAが過半数である。 A(良 好)＝個別評価がすべてA以上である。(上記以外) B(問題含)＝個別評価がすべてB以上であり、Bの割合が1割未満である。 C(要改善)＝上記以外